

門真市生涯学習推進基本計画
アンケート調査報告書

平成 25 年 3 月

門真市教育委員会

目次

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的	3
1-2. 調査方法	3
1-3. 調査内容	4
1-4. 回収結果	6
1-5. 報告書の見方	6

第2章 アンケート調査結果のまとめ

2-1. 市民アンケート調査	9
2-2. 団体アンケート調査	15

第3章 市民アンケート調査結果

3-1. 回答者の属性について	
問1. 性別	21
問2. 年代	22
問3. 校区	23
問4. 職業	25
問5. 居住年数	27
3-2. あなたの生涯学習活動について	
問6. 生涯学習という言葉・内容の認知	28
問7. 生涯学習についてのイメージ	31
問8. この1年以内の生涯学習活動の有無	34
問9. その生涯学習活動はどのような活動か	37
問10. スポーツの内容	40
問11. 生涯学習活動の時間	42
問12. 生涯学習活動を行っている場所	45
問13. 1ヶ月平均の生涯学習活動の費用	47
問14. 生涯学習活動をしている主な理由	50
問15. 生涯学習活動成果の活かし方	53
問16. 生涯学習活動時の困り事	56
問17. 生涯学習活動をしたことがない理由	59
3-3. 生涯学習に対する今後の取り組みや意向について	
問18. 今後の生涯学習活動への取り組み意向	63
問19. 取り組みたい生涯学習活動の種類	65
問20. 生涯学習活動をするために必要な情報	68
問21. 生涯学習に関する情報の入手先	71
問22. 市が最も取り組むべきこと	74

問 23. 市と市民がともに取り組むべきこと	78
------------------------	----

3-4. 自由意見	81
-----------	----

第4章 団体アンケート調査結果

4-1. 所属する団体について

問 1. 団体の主な活動	87
問 2. 団体の男女比	88
問 3. 団体の人数	90
問 4. 団体の最多年代	91
問 5. 団体の設立年代	93
問 6. 団体の活動日時	95
問 7. 団体の活動頻度	98
問 8. 会員の受入状況	100
問 9. 1ヶ月あたりの会員の活動費用	102
問 10. 他団体や地域の人と交流する機会の有無	104
問 11. 団体の活動目的	107
問 12. 団体の抱える問題点	110
問 13. 団体の今後の活動意向	113
問 14. 知識など活動成果の活かし方	115
問 15. 活動成果を活かすことへの意向	118
問 16. 活動成果を活かしたい対象	120

4-2. 市の生涯学習に関する取り組みについて

問 17. 市の生涯学習に関する取り組みで一番望むこと	123
問 18. 市と団体が共に取り組めること	126

4-3. 自由意見	129
-----------	-----

第5章 団体ヒアリング調査結果

5-1. 団体ヒアリング調査の実施概要	135
5-2. 団体ヒアリング調査のまとめ	135

(参考)

(参考-1) 市民アンケート調査票	139
(参考-2) 団体アンケート調査票	153
(参考-3) 団体ヒアリング調査票	162

第1章. アンケート調査の概要

第 1 章 調査の概要

1-1. 調査目的

平成 25 年度に門真市生涯学習推進基本計画を策定するにあたり、市民の学習活動の現状やニーズを把握することを目的とします。

1-2. 調査方法

アンケート調査は、市民と団体に対して行いました。それぞれのアンケート調査方法を以下に示します。

また、団体については、ヒアリング調査も併せて行いました。

(1) 市民アンケート

調査対象	門真市に在住する満 15 歳以上の市民 2,000 人 (市民約 12 万人から無作為抽出)
周知方法	広報「かどま」9 月号および市のホームページ、生涯学習施設に掲示
調査方法	郵送にて発送し、同封の返信用封筒で返送
調査期間	平成 24 年 9 月 3 日 (月) ~ 平成 24 年 9 月 24 日 (月)

(2) 団体アンケート

調査対象	生涯学習部所管施設の利用者登録団体 500 団体 (市の教育委員会に登録している約 1,300 団体から無作為抽出)
周知方法	広報「かどま」9 月号および市のホームページ、生涯学習施設に掲示
調査方法	郵送にて発送し、同封の返信用封筒で返送
調査期間	平成 24 年 9 月 3 日 (月) ~ 平成 24 年 9 月 24 日 (月)

(3) 団体ヒアリング

調査対象	門真市で活動する生涯学習関係団体やサークル
周知方法	広報「かどま」9 月号および市のホームページ、生涯学習施設に掲示
調査方法	事前に準備したヒアリングシートに従い、1 団体につき 30 分程度のヒアリングを行う
調査期間	平成 24 年 10 月 1 日 (月) ~ 平成 24 年 10 月 5 日 (金)

1-3. 調査内容

各アンケート、ヒアリング調査毎の調査内容は、以下の通りです。

(1) 市民アンケート調査

1. 回答者の属性について
 - 問1. 性別
 - 問2. 年代
 - 問3. 校区
 - 問4. 職業
 - 問5. 居住年数
2. 生涯学習活動について
 - 問6. 生涯学習という言葉聞いたことがあるか
 - 問7. 生涯学習のイメージ
 - 問8. 1年以内に生涯学習をしたことがあるか
 - 問9. その生涯学習活動はどのような活動か
 - 問10. どのようなスポーツをしていたか
 - 問11. 生涯学習活動をしている時間
 - 問12. 生涯学習活動を行っている場所
 - 問13. 1ヶ月平均の生涯学習活動の費用
 - 問14. 生涯学習活動をしている主な理由
 - 問15. 生涯学習で身につけた知識などをどう活かすか
 - 問16. 生涯学習活動をする際に困ったこと
 - 問17. 生涯学習をしていない一番の理由
3. 生涯学習に対する今後の取組や意向について
 - 問18. 今後、生涯学習活動を取り組みたいか
 - 問19. 今後、どのような生涯学習活動に取り組みたいか
 - 問20. 生涯学習活動をするために必要な情報
 - 問21. 生涯学習に関する情報の入手先
 - 問22. 市が最も取り組むべきこと
 - 問23. 市と市民の皆さんが共に取り組むべきこと
4. 自由意見

(2) 団体アンケート調査

1. 所属する団体について
 - 問1. 主な活動
 - 問2. 男女比
 - 問3. 人数
 - 問4. 一番多い年代
 - 問5. 設立年代
 - 問6. 主な活動日時
 - 問7. 活動頻度
 - 問8. 新たな会員の受入状況
 - 問9. 1ヶ月あたりの会費
 - 問10. 他団体や地域の人と交流する機会有無
 - 問11. 団体の活動目的
 - 問12. 団体の抱える問題点
 - 問13. 今後の団体活動
 - 問14. 知識などの活かし方
 - 問15. 活動成果を地域などで活かすかの有無
 - 問16. 活動の活かし方
2. 市の生涯学習に関する取り組みについて
 - 問17. 市の生涯学習の取り組みで一番望む事
 - 問18. 市と団体が共に取り組むこと
3. 自由意見

(3) 団体ヒアリング調査

- ① 団体の活動内容を具体的にお教え下さい。
- ② あなたが、この団体に入ったきっかけをお教え下さい。
- ③ 団体が活動する上で困っていること、問題点はありますか？
- ④ 団体では、どのようにして活動の成果を活かしておられますか？
- ⑤ 今後、市民の皆さんの活動を活発にするために、
市があなたの団体と一緒にできることはありますか？
(例えば、市のイベントの企画や準備、生涯学習の活動を支援する為の人材の育成など)
- ⑥ 今後、団体の活動をどのように行っていきたいですか？
- ⑦ その他、利用している施設や団体について
感じていることなどありましたら、お教え下さい。

1－4. 回収結果

(1) 市民アンケート調査

発送数：2,000 人

有効回収数：635 人

有効回収率：31.8%

(2) 団体アンケート調査

発送数：500 団体

有効回収数：294 団体

有効回収率：58.8%

(3) 団体ヒアリング調査

実施団体数：13 団体

1－5. 報告書の見方

- (1) 比率は全て百分率（％）で示し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。
- (2) それぞれのグラフに付記されている「n 数」とは、当該設問に対する回答者数を示します。
- (3) 「複数回答」とは、1 人が 2 つ以上の回答をしてもよい設問を言います。
- (4) この本編には、グラフのみを掲載していますが、その元となる数表は資料編（別冊）にまとめています。
- (5) 「内閣府調査結果」とは、内閣府「生涯学習に関する世論調査」（平成 24 年 7 月）のことを言います。

第2章. アンケート調査結果のまとめ

第2章 アンケート調査結果のまとめ

2-1. 市民アンケート調査

(1) 回答者の属性について（問1～問5）

アンケート結果から回答者のプロフィールを概観すると、性別については「女性」（60.9%）が「男性」（35.7%）と比べて多くなっています。

年代については、10歳～29歳が12.4%、30～49歳が30.9%、50歳～69歳が34.3%、70歳以上が20.3%と、若い世代の回答が少ないものの、どの年代からも多くの回答を得ています。

職業については、「無職」（40.9%）が最も多くなっています。

居住年数については、20年～29年（17.6%）、30～39年（23.0%）、40～49年（18.4%）とそれぞれ2割程度となっており、20～49年で約6割を占めています。

(2) 生涯学習の認知度について（問6）

生涯学習の認知度について見ると、「内容を知らない」が76.2%と約8割弱となっており、概して言葉の認知度は低いことがわかります。

中でも、『10歳代・20歳代』の若年層では89.9%と約9割が「内容を知らない」と答えており、他の年代と比べて1割以上高くなっています。

また、生涯学習という言葉について「聞いたことがある」は72.3%で、聞いたことがある人は多いことがわかります。

生涯学習活動の有無別に見ると、当然のこととして活動している人ほど認知度は高くなっています。

(3) 生涯学習のイメージについて（問7）

生涯学習のイメージについて見ると、「自分自身の教養を高めること」、「趣味や好きなことを行うこと」の他、「健康のために体を動かすこと」などの割合が高く、個人的な学習活動としてとらえられています。

特に『70歳代・80歳代以上』では「健康のために体を動かすこと」がほかの年代よりも1割以上高くなっていることが特徴となっています。

内閣府が平成24年7月に実施した『生涯学習に関する世論調査』（以下「内閣府調査結果」という。）では、「生涯を楽しみ、心を豊かにする活動をすること」（42.7%）、「趣味・教養を高めること」（40.6%）が上位を占めており、本調査と同様な傾向となっています。

(4) 活動経験の有無について（問8）

生涯学習の活動について見ると、「活動している」が24.6%である一方、「活動したことがない」が66.1%と約2.7倍となっています。言い換えると、市民の4人のうち3人は生涯学習活動をしていないといえます。

内閣府調査結果では、「生涯学習をしたことがない」が42.5%となっており、本調査

（「活動したことがない」が 66.2%）と比べて、本市は全国に比べて生涯学習活動をしていない割合が高いことがわかります。

これを年代別に見ると、『10 歳代・20 歳代』で「活動したことがない」（83.5%）が最も高く、年代が上がるに従ってその割合が低くなっていく傾向があります。

（5）生涯学習活動の内容について（問 9）

生涯学習をした人の具体的活動内容について見ると、「スポーツ」が 35.2%と最も高く、次いで「芸術的活動」が 23.5%、「仕事上で必要なこと」が 12.7%の順となっています。

内閣府調査結果においても、活動内容の順位は本調査と同様となっています。

ただし、本調査を男女別に見ると、『男性』は全体と順序は同じですが、『女性』は「芸術的活動」の方が「スポーツ」より高くなっていることが特徴です。

（6）生涯学習活動をしている人のスポーツの種類について（問 10）

生涯学習活動をしている人がどんなスポーツをやっているかについて見ると、「野球・ソフトボール」が 18.7%と最も高く、次いで「ウォーキング・ジョギング」12.0%、「グラウンドゴルフ」「ゴルフ」「水泳」がいずれも 8.0%の順となっています。

これを男女別に見ると、『男性』では、「野球・ソフトボール」（35.3%）が圧倒的に高く、『女性』では「水泳」（16.7%）が最も高くなっています。

また、年代別に見ると、『10 歳代・20 歳代』『30 歳代・40 歳代』『50 歳代・60 歳代』では「野球・ソフトボール」が最も高くなっています。

（7）活動時間帯について（問 11）

活動の時間について見ると、「普段の日に 1 時間以上 2 時間未満」が 25.8%と最も高く、次いで「普段の日に 1 時間未満」が 16.0%、「普段の日に 2 時間以上 3 時間未満」が 15.0%となっており、普段の日が中心となっています。

（8）生涯学習を行っている場所について（問 12）

生涯学習を行っている場所について見ると、「市内の公共施設」が 37.6%と最も高く、次いで「自宅」が 15.5%となっており、市内の公共施設が圧倒的に多くなっています。

ただし、『30 歳代・40 歳代』では「自宅」（24.2%）が最も高くなっていることが特徴です。

これを男女別に見ると、『男性』では、「市外の民間施設」（14.5%）、『女性』では「市内の公共施設」（41.9%）が全体に比べて高くなっています。

（9）活動費について（問 13）

生涯学習の 1 ヶ月あたりの活動費について見ると、「2,500 円未満」が 50.3%と約 5 割を占めている一方、「7,500 円以上」が 21.1%と約 2 割を占めており、比較的高額の費用を支払っている人もいます。

これを生涯学習活動別に見ると、いずれのランクも「スポーツ」をしている人が最も高くなっており、スポーツをしている人の活動費は「2,500 円未満」と「7,500 円以上」に二極化の傾向があることがわかります。

(10) 生涯学習をしている主な理由について（問 14）

生涯学習をしている主な理由について見ると、「その活動が好きだから」が 32.4%、「教養や能力を高めるため」が 16.9%、「健康のため」が 16.4%の順となっており、自分のために活動している人が多いことがわかります。

内閣府調査結果では、「その活動が好きであったり、人生を豊かにするため」「健康の維持・増進のため」が上位となっており、全国と比較しても同様な結果となっています。

これを年代別に見ると、『10 歳代・20 歳代』では「教養や能力を高めるため」(38.5%)、『30 歳代・40 歳代』では「その活動が好きだから」(41.9%)、『50 歳代・60 歳代』『70 歳代・80 歳代』では「健康のために」が全体と比べて高くなっていることが特徴です。

(11) 身につけた知識や技能などを今後どう活かすかについて（問 15）

生涯学習活動で身につけた知識や技能などをどう活かすかについて見ると、「健康の維持・増進に活かしたい」が 31.5%と最も高く、「地域や社会のために活かしたい」が 14.6%、「特に活かしたいと思わない」が 12.2%の順となっており、健康の維持や増進などに活かしたい人がある反面、「特に活かしたいと思わない」人が約 12%いることがわかります。

内閣府調査結果では、「自分の人生がより豊かになっている」が 49.1%、「自分の健康の維持・増進にしている」が 43.9%、「家庭・日常の生活に活かしている」が 36.7%となっている反面、「活かしていない」は 7.1%となっており、本市は全国に比べても多いことがわかります。

(12) 活動上の困りごとについて（問 16）

生涯学習活動で困ったことについて見ると、「忙しくて活動時間が確保できない」が 19.7%、「費用が高い」が 11.7%、「活動する仲間がいない」が 7.5%の順となっており、時間、料金、仲間といったことが困り事としてあげられています。

内閣府調査結果との比較では、上位 2 番目までは同じですが、「仲間がいない」は本市の方が上位にきています。

本調査で、『30 歳代・40 歳代』が「忙しくて活動時間が確保できない」の割合が最も高くなっており、日常生活の中で生涯学習に当てる時間が取りにくいことがわかります。

(13) 生涯学習をしていない理由について（問 17）

生涯学習をしていない理由について見ると、「忙しくて活動時間が確保できない」が 29.0%と最も高く、次いで「特に理由はない」が 24.0%、「興味が無い」が 8.6%の順となっており、忙しくて時間が取れないという一方で、理由はないや興味が無いといった無関心を理由にあげる人もかなりいます。

内閣府調査結果では、「仕事が忙しく時間がない」が42.4%となっており、本調査と同じように時間を確保することが出来ないことが大きな理由といえます。

本調査で、『30歳代・40歳代』が「忙しくて活動時間が確保できない」の割合が最も高くなっており、問16と同じように日常生活の中で生涯学習に当てる時間が取りにくいことがわかります。

これを職業別に見ると、『会社員・団体職員・公務員』が「忙しくて活動時間が確保できない」が最も高くなっています。

(14) 生涯学習への今後の希望について（問18）

今後、生涯学習の活動に取り組んでみたいかについて見ると、「取り組みたい」が59.4%、「取り組む予定はない」の36.9%となっており、約6割の人が取り組み志向を持っています。

これを年代別に見ると、『30歳代・40歳代』が「取り組みたい」が最も高くなっています。

(15) 今後、最も取り組みたい生涯学習活動について（問19）

今後、最も取り組みたい生涯学習の活動について見ると、「音楽、美術、華道、舞踊、書道など芸術的活動」が24.1%と最も高く、次いで「スポーツ（観戦を含む）」が19.9%、「料理、洋裁、ガーデニングなど家庭生活に関すること」が12.5%と文化系活動とスポーツ活動が高くなっています。

これを男女別に見ると、『男性』は「スポーツ（観戦を含む）」、『女性』は「音楽、美術、華道、武道、書道など芸術的活動」が最も高くなっていることが特徴です。

また年代別では、『50歳代・60歳代』で「音楽、美術、華道、武道、書道など芸術的活動」が最も高くなっていることが特徴です。

(16) 生涯学習で必要な情報について（問20）

生涯学習活動に取り組むためにどのような情報が必要かについて見ると、「講座や教室の開催に関する情報」が33.4%と最も高く、次いで「市内で開催されるイベントの情報」が17.5%となっており、「催し」に関するものが高くなっているのに続いて、「利用できる施設の情報」が13.8%と「施設」に関するものとなっています。

これを男女別に見ると、『男性』で「参加できる団体やサークルの情報」が最も高くなっていることが特徴です。

また、活動場所別に見ると、『市内の公共施設』で「講座や教室の開催に関する情報」（33.8%）、『市内の民間施設』で「講師や指導者などの情報」（31.6%）、『市外の民間施設』で「講座や教室の開催に関する情報」（50.0%）が全体に比べて高くなっていることが特徴です。

(17) 生涯学習情報の入手方法について（問21）

生涯学習の活動に関する情報をどのように入手したいかについて見ると、「広報かど

ま」が 63.1%と最も高く、次いで「門真市生涯学習だよりなど」が 10.6%、「市ホームページなどのウェブサイト」が 10.3%となっており、圧倒的に広報かどまが高くなっています。

また、男女又は年齢を問わず、「広報かどま」が最も高くなっており、情報媒体としての有効性は大きいと言えます。

一方、『50 歳代・60 歳代』『70 歳代・80 歳代以上』では、「市ホームページなどのウェブサイト」を見ていないことがわかります。

(18) 生涯学習活動を活発にするために市が取り組むことについて（問 22）

市の取り組むべきことについて見ると、「生涯学習に関する情報提供」が 28.6%と最も高く、次いで「利用しやすい公共施設の拡充」が 24.4%となっており、情報提供と施設拡充が高くなっています。

ただし、年代別の『70 歳代』で「利用しやすい公共施設の拡充」が最も高くなっており、高齢者は施設利用面を重視していることがわかります。

これを生涯学習認知別に見ると、『聞いたことがあり、内容も知っている』『聞いたことはあるが、内容は知らない』で「利用しやすい公共施設の拡充」が、『聞いたことがなく、内容も知らない』で「生涯学習に関する情報の提供」が全体より高くなっています。

(19) 生涯学習活動を活発にするために市と市民の皆さんが取り組むことについて（問 23）

市と市民の皆さんとともに取り組むべきことについて見ると、「イベントや講座などの企画」が 27.3%と最も高く、次いで「生涯学習活動を支援することができる人材の育成」が 23.1%、「公共施設の運営」が 18.6%の順となっています。

これを男女別に見ると、『男性』では「公共施設の運営」（22.5%）、『女性』では「サークルや教室などを紹介する冊子づくり」（17.0%）が全体より高くなっています。

また、年代別に見ると、『10 歳代・20 歳代』『30 歳代・40 歳代』で「イベントや講座などの企画」が、『70 歳代・80 歳代以上』で「生涯学習活動を支援することができる人材の育成」（33.3%）が全体より高くなっています。

さらに活動で困ったこと別に見ると、『忙しくて活動時間が確保できない』『学習活動に関する情報が不足している』で「イベントや講座などの企画」が、『施設が利用しづらい』で「公共施設の運営」が全体より高くなっています。

(20) 自由意見について

「施設の利用のしやすさ」「施設の充実」および「利用料金の減額」等、施設についての要望・意見が最も多く、その他、生涯学習情報の提供についての要望・意見が多かったです。

生涯学習については、「生涯学習の言葉の浸透が必要」などといった意見がありました。

また、「生涯学習と言っても幅が広すぎるので、推進するならばピンポイントに焦点をあてたほうが対応できるのではないか」といった推進に関する意見もありました。

講座については、「手頃な料金でお願いしたい」「無料であれば参加してみたい」といった受講料に関する意見がありました。また、開催日についても「土日にもっと開催して欲しい」といった開催日の充実の意見もありました。

イベントについては、「小規模でもいいからいろいろな企画を立てて欲しい」「イベントに関する情報提供がほしい」といったイベントの推進や情報についての要望がありました。

市に対する意見については、広報について「生涯学習の情報や具体案をわかりやすく」「市のホームページは見づらいので、生涯学習のコーナーは入りやすい感じにしていたければ」「皆によく知ってもらえるような案内や説明が必要」といった情報媒体の充実や説明方法に関するもの、「関係者の育成」といった行政職員に関するものがありました。

その他、資格取得については、「リーズナブルな価格で仕事に活かせる勉強できる機会の提供」といった意見がありました。

2-2. 団体アンケート調査

(1) 団体および活動の概要について（問3、問4、問6）

アンケート結果から団体のプロフィールを概観すると、構成人数は「11～20人」（問3）、年齢は「60歳以上」（問4）、活動日時は「平日中心」（問6）となっています。

活動日時を年代別に見ると、『10歳代未満・10歳代』『20歳代・30歳代』『40歳代・50歳代』で「平日の夜間」「土日祝日の昼間」、『60歳代・70歳代・80歳代以上』で「平日の午前」「平日の昼間」が最も高く、『60歳代・70歳代・80歳代以上』では「活動は平日が中心」ということがわかります。

(2) 団体の活動頻度について（問7）

団体の活動頻度について見ると、「週1回程度」が32.3%と最も高く、次いで「月2回程度」が29.3%、「週3回以上」が12.6%の順となっています。

これを主な活動別に見ると、『スポーツ』では「週1回程度」（40.3%）が、『文化・芸術・音楽』では「月2回程度」（50.5%）が最も高くなっています。

また、団体人数規模別に見ると、『10人以下』で「月2回程度」（40.9%）が、『30人以上』で「週3回以上」（29.5%）が最も高くなっていることが特徴です。

(3) 会員受け入れの有無について（問8）

新たな会員の受入状況について見ると、「常に受け入れている」が81.3%と最も高く、次いで「年1回など定期的に受け入れている」が10.5%、「受け入れていない」が7.5%の順となっています。

これを主な活動別に見ると、どの活動区分も概して全体と同様の傾向となっていますが、『スポーツ』で「常に受け入れている」（83.0%）とやや高いこと、逆に「年1回など定期的に受け入れている」（7.5%）がやや低いことが特徴です。

団体人数規模別に見ると、『10人以下』で「受け入れていない」（83.0%）が最も高いことが特徴です。

(4) 活動費用について（問9）

活動費用について見ると、「1,000円以上2,500円未満」が41.2%と最も高く、次いで「500円未満」と「500円以上1,000円未満」が22.1%となっています。

これを主な活動別に見ると、『文化・芸術・音楽』では「1,000円以上2,500円未満」が52.5%と最も高くなっています。

また、団体人数規模別に見ると、『30人以上』で「2,500円以上」の回答が27.3%と最も高く、人数規模が大きくなるにしたがって活動費用が高い団体の割合が増えることが特徴です。

(5) 交流の機会について (問 10)

交流の機会について見ると、「密接な交流の機会がある」と「少し交流はある」の合計が 70.8%となっており、交流機会をもっている割合が高いことがわかります。

逆に「特に交流の機会がない」が 27.9%と約 3 割弱が独立的な活動をしていることがわかります。

これを団体人数別に見ると、人数規模が大きくなるにしたがって、「密接な交流の機会がある」の割合が高くなっていることがわかります。

また、活動日時別に見ると、『平日の夜間』が「密接な交流の機会がある」が 37.3%と高くなっています。

(6) 活動の目的について (問 11)

団体の活動目的について見ると、「健康のため」が 41.8%と最も高く、次いで「知識や技能を向上させるため」が 30.6%、「会員の楽しみのため」が 28.9%となっています。

これを団体人数規模別に見ると、『21 人～30 人』で「知識や技能を向上させるため」が 36.6%と最も高くなっていることが特徴です。

また、主な活動別に見ると、『スポーツ』では全体と同様な傾向ですが、『文化・芸術・音楽』では「知識や技能を向上させるため」(45.5%) が全体に比べて高くなっています。

(7) 団体の抱える問題点について (問 12)

団体の抱える問題点について見ると、「新たに加入する会員が少ない」が 51.0%のほか、「活動場所が確保しづらい」が 25.9%と会員確保や場所確保の問題が上位を占めていますが、一方「特に問題はない」が 28.6%と約 3 割となっています。

これを団体人数規模別に見ると、『30 人以上』では「活動場所が確保しづらい」が最も高くなっており、規模の大きい団体になると場所の問題が浮上してきていることがわかります。

(8) 団体の今後の活動意向について (問 13)

団体の今後の活動意向について見ると、「これまで行ってきた活動を継続したい」が 86.1%と最も高く、次いで「機会があれば新しい活動を行ってみたい」が 10.9%となっており、ほとんどの団体がこれまで行ってきた活動を継続したいという意向をもっていることがわかります。

これを活動別・団体規模別に見ても、全体の傾向と同様となっています。

(9) 知識や技能、経験や人脈などの活動の成果を活かすことについて (問 14)

団体会員の知識などの活かし方について見ると、「健康の増進に活かしている」が 65.0%で最も高く、次いで「家族や友人のために活かしている」が 26.9%、「普及や指導に活かしている」が 23.1%の順となっています。

これを主な活動別に見ると、『スポーツ』では「健康の増進に活かしている」(82.4%)で圧倒的に高くなっています。『文化・芸術・音楽』では「社会貢献に活かしている」(26.7%)が全体に比べて高くなっています。

また、団体人数規模別に見ると、『30人以上』で「普及や指導に活かしている」(40.9%)、「社会貢献に活かしている」(34.1%)が全体より高くなっています。

(10) 活動の成果を活かすことについて (問 15)

活動成果を社会で活かすことについて見ると、「活かしてみたい」が61.6%と約6割を占めており、その対象としては「高齢者の生きがいづくり」「地域をよくする活動」「子どもの学びや運動支援」が上位となっています。

逆に「活かしてみたいと思わない」が、37.8%と約4割弱を占めています。

これを活動別および団体人数別に見ると、活動別では『文化・芸術・音楽』、団体人数別では『30人以上』で「活かしてみたい」が最も高く、文化に取り組む団体や大規模な団体でそのような意向が高いことがわかります。

(11) 活動の活かし方について (問 16)

活動の成果を活かしてみたい人がどのような活動に活かしてみたいかについて見ると、「高齢者の生きがいをつくる活動」が60.8%と最も高く、次いで「地域を良くするための活動」が45.9%、「子どもの学びや運動を支援する活動」が36.5%となっており、高齢者、地域、子どもがキーワードとなっています。

これを活動別に見ると、『スポーツ』では「子どもの学びや運動を支援する活動」、『文化・芸術・音楽』では「高齢者の生きがいをつくる活動」が最も高くなっていることが特徴です。

(12) 市の生涯学習に関する取り組みで一番望むこと (問 17)

市の生涯学習に関する取り組みで一番望むことについて見ると、「施設予約方法の変更」が18.0%と最も高く、次いで「新しい活動場所の整備」が17.0%、「既存施設の修繕や設備の更新」が13.3%となっており、施設の利用や整備についての要望が高くなっています。

ただし、活動別に見ると、『スポーツ』では「新しい活動場所の整備」が最も高くなっていることが特徴です。

(13) 市と団体が共に取り組み出来ることについて (問 18)

市と団体がともに取り組むことができることについて見ると、「団体紹介の情報収集と発信」が33.7%と最も高く、次いで「市のイベントなどの企画や準備」が28.2%となっており、情報面での充実と市と共にイベントの企画や準備に取り組むといったことが挙げられています。

ただし、活動別に見ると、『文化・芸術・音楽』では「市のイベントなどの企画や準備」がやや高くなっており、市と一緒にイベントなどに取り組む志向が高いと言えます。

(14) 自由意見について

自由意見については、合計 103 件がありました。

その中で「施設の設備充実」「施設の増設」といった意見・要望が多くありました。

また、施設の料金については、「料金が高すぎる」など、料金についての意見もありました。

一方、施設利用については「土日は子どもたちに使わせてほしい」「土日に空きの日がない」「グラウンドの確保が難しい」といった意見がありました。

さらに、施設への交通の便については「交通の便の確保」「文化会館へのアクセスを便利にして欲しい」といった交通アクセスの改善を求める意見がありました。

この他、施設予約について、「時間で予約を取れるようにしてほしい」「少しでも予約が取りやすくしてほしい」「誰でも使える予約システムにして欲しい」といった意見がありました。